



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カールリブラ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

しようもない駄洒落が時に

人の心を揺さぶることがあるのだよ(カジ談)

【前回までのあらすじ】

自由になりたい、そしてボンキッキが観たいというしようもない理由から、中学校を休みがちになっていたカジ少年だったが、2年生のクラス替えで学園のアイドル峰澤千絵ちゃんと同じクラスかつ、同じ出席番号に！ やっすいトレンドイドラマのようなベタベタな展開の恋の幕開けだ。

分かりにくいけど、ここ笑うとこですよ～

いよいよ2年7組の教室へと初入室。黒板にそれぞれの席が記してあり、12番のカジの隣にはもちろん「峰澤」の文字。

「ああ、本当に隣の席なんだな」

と、かみしめつつ自席に向かうと、そこにはすでに峰澤さんが座っていた。何事も最初が大事、好印象を与えるにはどうすべきかとフガフガ考えながら席に着くと、峰澤さんはまぶしすぎる笑顔で言う。

「峰澤です。カジくんよろしくね☆」

それに対し極度の緊張で「ごうも」と答えるのが精一杯のカジ少年。おいおい、そんなことで大丈夫なのか？ 結局、初日の会話はこのやりとりだけで終了。2日目も朝のあいさつのみ、3日目も朝のあいさつのみと、全く進歩のない状況が続く。だが、その閉塞感を吹き飛ばす一撃をカジはやってのける。

一週間後、休憩時間に峰澤さんが話しかけてきてくれた。

「南中(なんちゆう)って期末テストの順位が廊下に貼り出されるんだって」

この何気ないフリに対して、カジはいきなりのマックステンションの裏返り声で

「なんちゆう学校だ！」

このどうってことのないしようもない駄洒落が、どうゆうわけか峰澤さんのツボを捉えた。それ以降、カジくんは面白人という方程式が彼女の中にできあがり、しようもない駄洒落を期待してネタフリをしてくるようになったのである。(今思うと、彼女もちよっとおかしな人間だな)

この件をきっかけにカジと峰澤さんの関係は一気に良好に。そしてこの混乱に乗じて峰澤さんではなく、千絵ちゃんと名前を呼ぶことに成功したカジであった。

